

教育委員会の権限に属する事務の
管理及び執行の状況に係る点検・
評価に関する報告書
(令和7年度事業分)



令和8年8月
雲仙市教育委員会



雲仙市教育方針

雲仙市教育委員会は、広く市民の理解、協力、参画のもとに、「明日を担う人づくりと誇りあるふるさとづくり」を推進する。

このため、人間尊重の精神を基調として、生涯を通じて学び、郷土を愛し、郷土の自然・歴史・文化に誇りを持ち、国際社会に貢献できる調和のとれた個性豊かな人間の育成を図る。

特に、教育に携わる者は、その使命感に徹し、自らの識見を高めるとともに、深い教育愛とすぐれた指導力を身につけ、相和して本市教育の充実発展に努める。

雲仙市教育努力目標

- ふれあい、学びあい、認めあう生涯学習の推進
- 豊かな心と自ら学ぶ力をはぐくむ学校教育の実現
- 明るい社会をつくる人権・同和教育の推進
- 夢と希望をもち、たくましさ・やさしさを身につけた青少年の育成
- 郷土の豊かさをはぐくむ芸術・文化の振興
- 健康で明るく、たくましい心とからだをはぐくむ生涯スポーツの振興
- 国際性豊かな人づくりの推進

雲仙市教育のキーワード

やさしさに満ちた教育【人・地域・環境】

目 次

1	はじめに		P	1
2	雲仙市教育委員会の活動状況		P	2～6
	(1) 教育委員会の構成（令和8年4月1日現在）			
	(2) 教育委員会及び教育委員の主な活動報告			
	①教育委員会開催			
	②教育長及び教育委員による学校等訪問			
	③その他の活動			
3	雲仙市教育振興基本計画 主要施策体系図	..	P	7
4	点検及び評価の概要		P	8
	(1) 点検及び評価の対象			
	(2) 点検・評価方法			
5	「重点目標」の評価結果		P	8
6	主要施策に係る点検評価シート			
	重点目標1 子どもたちの学びと成長を豊かにする教育を推進します。			
			P	9～16
	(1)-① 確かな学力・豊かな心・健やかな体を育む教育活動の充実			
	(1)-②、(3)-① コミュニティ・スクール導入による教育活動充実			
	(1)-③ 教職員研修充実と働き方改革推進			
	(2)-① 安全安心で快適な学習環境づくり			
	(2)-② 時代に即した情報教育環境の整備			
	(3)-② 教育相談、不登校児童生徒支援充実			
	(3)-③ いじめ対策の充実			
	(3)-④ 各種就学支援事業の実施			

重点目標２ 生涯にわたって、学べる環境づくりを推進します。

…………… P 17～22

- (1)-① 多様な生涯学習プログラムの実施
- (1)-② 市民のニーズに応じた図書館・図書室運営の充実
- (1)-③ 各種文化団体の活動支援
- (2)-① 地域に根差した青少年の健全育成の推進
- (2)-② 一人一人が認めあう人権意識の啓発
- (3)-① 学びの場としての社会教育施設の適正な管理運営

重点目標３ 歴史を守りながら、芸術・文化の香りが漂うまちづくりを推進します。

…………… P 23～26

- (1)-① 郷土の歴史・文化の継承
- (1)-② 伝統的建造物群保存地区事業の推進
- (1)-③ 開発事業に伴う埋蔵文化財の適切な保存活用
- (2)-① 市民団体と連携した文化芸術活動の推進

重点目標４ 運動やスポーツに親しむことができる環境づくりを推進します。

…………… P 27～30

- (1)-① 運動・スポーツの日常化の推進
- (1)-② スポーツ競技力向上とジュニアスポーツの推進
- (2)-① 社会体育施設の整備と民間活力の導入
- (2)-② 地域資源を生かしたスポーツツーリズムの推進

７ 学識経験者の所見

…………… P 31～

1 はじめに

雲仙市教育委員会では、市の教育方針である「明日を担う人づくりと誇りあるふるさとづくり」を推進するため、雲仙市教育方針や努力目標を掲げ、様々な取組を進めてまいりました。さらに平成28年4月に雲仙市教育振興基本計画、令和3年4月には第2期の雲仙市教育振興基本計画を策定し、この計画を教育行政推進の基本と位置づけ、その目標達成に向け様々な施策を展開しているところです。

平成19年6月に、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」が改正されたことに伴い、同法第26条第1項の規定に基づき平成19年度事業分から点検・評価を行うよう義務付けられたことから、毎年、「教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況に係る点検・評価に関する報告書」を作成し、雲仙市議会に提出するとともに市民の皆様に公表しています。

また、同法第26条第2項に、点検・評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図ることとされていることから、学識経験者として元雲仙市立小浜中学校校長 伊藤 信 氏に所見をいただいております。

雲仙市教育委員会では、今回の点検・評価及び学識経験者の所見を基に教育委員会の活性化及び事務事業の推進など教育行政の担い手としての役割を発揮し、更なる教育の充実に努めてまいります。

令和8年8月13日

雲仙市教育委員会

2 雲仙市教育委員会の活動状況

雲仙市教育委員会の会議は、毎月 1 回定例会を開催するほか、必要に応じて臨時会を開催し、施策や事業の効果的・効率的な実施や緊急な課題への適切な対応を図るための協議等を重ねています。

定例会教育委員会の会議以外の活動では、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第 1 条の 4 に基づき、総合教育会議（年 2 回）において教育行政の現状と課題などについて市長との協議を行いました。また、その他の活動にも積極的に参加するなど、教育行政の中心的な役割を担い、教育施策の推進を図りました。

（１）教育委員会の構成（令和 8 年 4 月 1 日現在）

区別	氏 名	任 期	
		任命年月日	満了年月日
教育長	大津 善信	令和 8 年 3 月 1 日	令和 1 1 年 2 月 2 8 日
教育委員 (教育長職務代理者)	江川 儀平	令和 4 年 1 2 月 2 日	令和 8 年 1 2 月 1 日
教育委員	進藤 梓	令和 5 年 1 2 月 2 日	令和 9 年 1 2 月 1 日
教育委員	寺田 三千裕	令和 6 年 1 2 月 2 日	令和 1 0 年 1 2 月 1 日
教育委員	田中 恭子	令和 7 年 1 2 月 2 日	令和 1 1 年 1 2 月 1 日

（２）教育委員会及び教育委員の主な活動報告

①教育委員会開催

令和 7 年度は、定例会を 1 2 回、臨時会を 1 回開催し、教育長に委任された教育に関する事務の執行の状況を確認するとともに議案 3 9 件、報告事項 8 件について審議等を行いました。

会議名 (開催日)	種別	主 な 審 議 事 項
第 1 回 定例会 (4 月 2 5 日)	報告	教育委員会事務局職員の社会教育主事発令について
	報告	雲仙市社会教育委員の委嘱について
	報告	雲仙市図書館協議会委員の委嘱について

会議名 (開催日)	種別	主 な 審 議 事 項
第 1 回定例会 (4 月 2 5 日)	議案	議会の議決を経るべき議案についての意見の申し出について (雲仙市立小・中学校設置条例の一部を改正する条例について)
	議案	雲仙市歴史資料館の管理運営に関する規則の一部を改正する規則について
	議案	議会の議決を経るべき議案についての意見の申し出について (令和 7 年度一般会計補正予算 (第 1 号) 案について)
第 2 回定例会 (5 月 2 8 日)	報告	雲仙市教育支援委員会委員の委嘱について
	議案	雲仙市学校給食運営審議会委員の委嘱について
	議案	雲仙市伝統的建造物群保存地区における環境物件の指定解除について
第 3 回定例会 (6 月 3 0 日)	報告	教育委員会事務局職員の人事異動について
	議案	雲仙市教育振興基本計画検討委員会委員の委嘱について
第 4 回定例会 (7 月 3 0 日)	議案	令和 6 年度事業分に係る「教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況に係る点検・評価に関する報告書」の作成について
	議案	議会の議決を経るべき議案についての意見の申し出について (動産の買入れについて)
	議案	議会の議決を経るべき議案についての意見の申し出について (令和 7 年度一般会計補正予算 (第 4 号) 案について)
第 5 回定例会 (8 月 2 2 日)	議案	雲仙市伝統的建造物群保存地区における環境物件の指定解除について
第 6 回定例会 (9 月 2 9 日)	議案	雲仙市行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律に基づく個人番号の利用及び特定個人情報の提供に関する条例教育委員会施行規則の一部を改正する規則について
第 7 回定例会 (1 0 月 3 0 日)	議案	幼保小連携推進懇談会設置要綱の制定について 【継続審査】
第 8 回定例会 (1 1 月 2 7 日)	議案	幼保小連携推進懇談会設置要綱の制定について
	議案	議会の議決を経るべき議案についての意見の申し出について (令和 7 年度一般会計補正予算 (第 7 号) 案について)
	議案	雲仙市文化会館の設置及び管理に関する条例施行規則の一部を改正する規則について
第 1 回臨時会 (1 2 月 2 日)	報告	雲仙市教育委員会の構成について

会議名 (開催日)	種別	主 な 審 議 事 項
第 9 回定例会 (12月25日)	議案	雲仙市小・中学生遠距離通学費補助金交付要綱の一部を改正する要綱について
	議案	雲仙市立小・中学校の通学区域に関する規則の一部を改正する規則について
	議案	雲仙市立小・中学校共同実施室の設置並びに組織及び運営に関する規程の一部を改正する規程について
第 10 回定例会 (1月28日)	議案	議会の議決を経るべき議案についての意見の申し出について (雲仙市特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例について)
	議案	議会の議決を経るべき議案についての意見の申し出について (雲仙市南串山いこいの広場の設置及び管理に関する条例の制定について)
	議案	議会の議決を経るべき議案についての意見の申し出について (雲仙市伝統的建造物群保存地区保存条例の一部を改正する条例について)
	議案	議会の議決を経るべき議案についての意見の申し出について (雲仙市社会体育施設の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例について)
	議案	議会の議決を経るべき議案についての意見の申し出について (令和7年度一般会計補正予算(第10号)案について)
	議案	議会の議決を経るべき議案についての意見の申し出について (令和8年度一般会計当初予算案について)
第 11 回定例会 (2月19日)	議案	令和8年度雲仙市立小・中学校教職員人事異動の内申について
	議案	雲仙市立学校の教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画の策定について
第 12 回定例会 (3月26日)	報告	臨時代理の報告について(議会の議決を経るべき議案についての意見の申出について「令和7年度一般会計補正予算(第11号)」)
	報告	臨時代理の報告について(議会の議決を経るべき議案についての意見の申出について「令和8年度一般会計補正予算(第1号)」)
	議案	雲仙市立学校その他の教育機関の長に対する事務委任規程の一部を改正する規程について
	議案	雲仙市学校運営協議会規則の一部を改正する規則について
	議案	雲仙市立小・中学校管理規則の一部を改正する規則について

第12回定例会 (3月26日)	議案	雲仙市立小・中学校処務規則の一部を改正する規則について
	議案	雲仙市中学校部活動費補助金交付要綱の一部を改正する要綱について
	議案	雲仙市南串山いこいの広場の設置及び管理に関する条例施行規則の制定について
	議案	雲仙市教育支援委員会委員の委嘱について
	議案	雲仙市社会教育委員の委嘱について
	議案	雲仙市公民館運営審議会委員の委嘱について
	議案	雲仙市文化会館運営審議会委員会委員の委嘱について
	議案	雲仙市文化財保護審議会委員の委嘱について
	議案	雲仙市伝統的建造物群保存地区保存審議会委員の委嘱について
	議案	雲仙市スポーツ推進委員の委嘱について
	議案	雲仙市教育振興基本計画（第3期）の策定について

②教育長及び教育委員による学校等訪問

教育長及び教育委員は、市立小・中学校の学校経営及び学校施設等の整備状況を把握し、学校教育の更なる振興を図ることを目的に、学校訪問を毎年行っています。

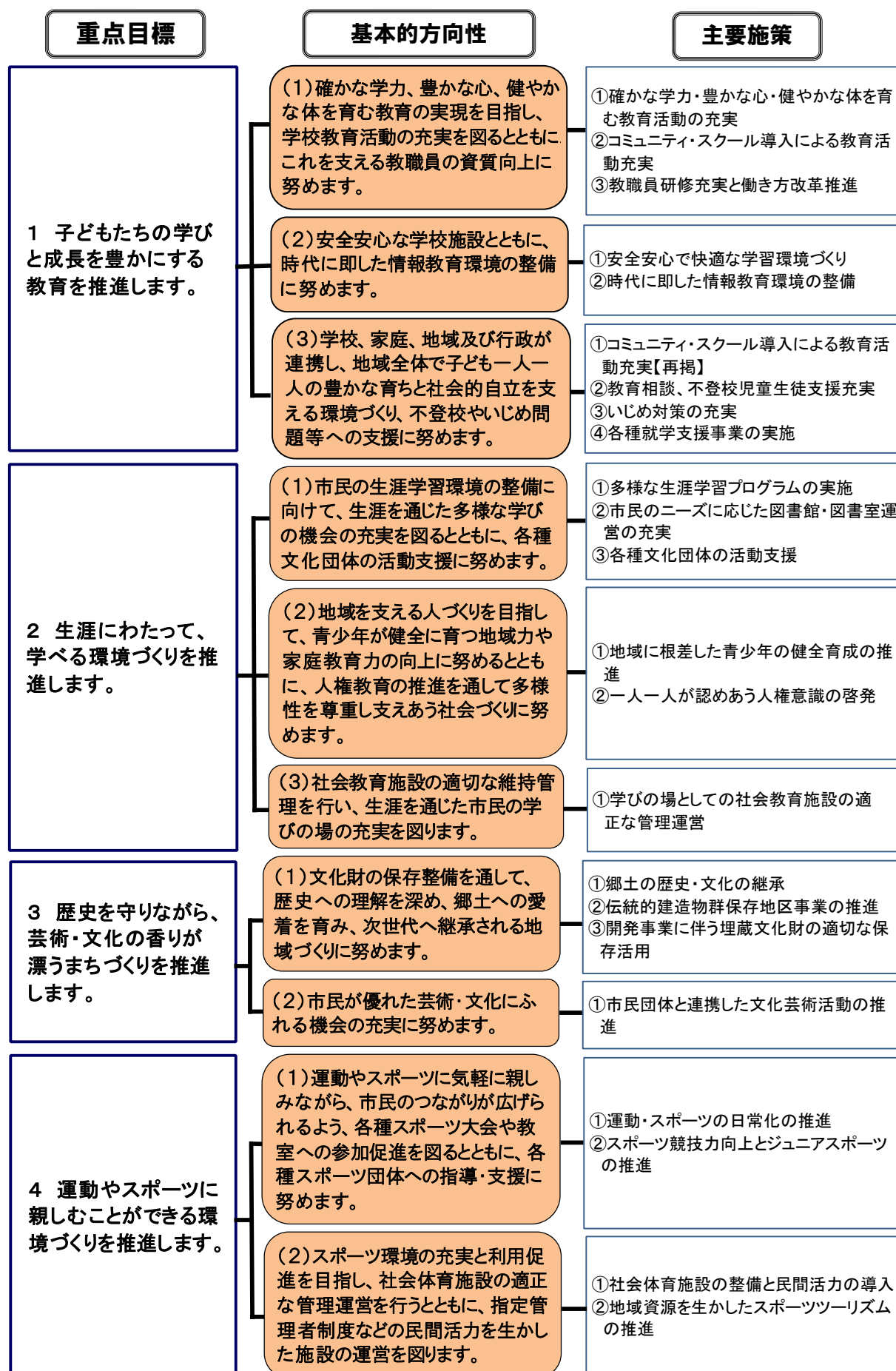
令和7年度は小・中学校への訪問と県立島原特別支援学校南串山分教室の視察を行いました。

期 日	訪問校等	内 容
令和7年10月23日	八斗木小学校	学校経営概況説明等
令和7年10月27日	国見中学校	学校経営概況説明等
令和7年10月30日	県立島原特別支援学校南串山分教室	視察
令和7年10月31日	鶴田小学校	学校経営概況説明等

③その他の活動

期 日	活動内容	場 所
令和7年 4月 2日	新規採用教職員・新補管理職員辞令交付式	市役所千々石庁舎
令和7年 4月 9日	市内小学校入学式（午前） 市内中学校入学式（午後）	各小・中学校
令和7年 4月23日	長崎県市町村教育委員会連絡協議会理事会	佐世保市すこやかプラザ
令和7年 5月27日	長崎県市町村教育委員会連絡協議会総会及び合同研修会	アルカス SASEBO
令和7年 6月 7日 ～ 8日	雲仙市中学校総合体育大会 球技・武道大会	市内各施設
令和7年 6月18日	雲仙市中学校総合体育大会 陸上競技大会	県立総合運動公園
令和7年 8月 4日	第1回総合教育会議 「家庭教育の推進について」	市役所本庁舎
令和7年 8月21日	九州地区市町村教育委員会研修大会	シーハットおおむら
令和7年10月 2日	雲仙市中学校総合体育大会 駅伝大会	県立総合運動公園
令和7年10月 4日	雲仙市中学生英語スピーチコンテスト	瑞穂町公民館
令和7年10月19日	合併20周年記念市民運動会	愛野運動公園
令和7年12月 6日	第20回雲仙市少年の主張大会	愛の夢未来センター
令和8年 1月 4日	雲仙市二十歳のつどい	愛の夢未来センター
令和8年 1月 5日	雲仙市消防出初式	小浜体育館
令和8年 2月 3日	第2回総合教育会議 「雲仙市教育振興基本計画第3期 について」	市役所本庁舎
令和8年 2月15日	千々石第二小学校閉校記念式典	千々石第二小学校
令和8年 3月11日	市内中学校卒業式	各中学校
令和8年 3月18日	市内小学校卒業式	各小学校
令和8年 3月31日	教職員退職者辞令交付式	市役所千々石庁舎

3 雲仙市教育振興基本計画 主要施策体系図



4 点検及び評価の概要

(1) 点検及び評価の対象

令和3年に策定した「第2期雲仙市教育振興基本計画」の基本方針に基づく個々の主要施策(Plan)を点検の対象とし、その取組状況(Do)を評価検証する(Check)とともに、その事業達成に向け課題を明確化することにより、次年度以降の取組の方向性を示す(Action)、PDCA サイクルによる事務事業の点検及び評価を行います。

(2) 点検・評価方法

事務の点検及び評価については、各主要施策の取組や達成状況を踏まえ、進捗状況の自己評価を5段階（Aを5点～Eを1点）で示し、それを平均したものを「重点目標」の進捗状況として評価を行います。

「施策の方針」の評価区分	ランクの数値	主要施策ランク	
計画を上回って進捗	4.6 以上	A	5
計画どおり進捗	3.6～4.6 未満	B	4
一部課題はあるが概ね計画どおり進捗	2.6～3.6 未満	C	3
計画に全体的な遅れがある	1.6～2.6 未満	D	2
計画の多くが未達成又は見直しが必要	1.6 未満	E	1

※「施策の方針」の評価＝主要施策ごとの点検シートのランクの数値合計÷主要施策数

5 「重点目標」の評価結果

雲仙市教育振興基本計画における22の主要施策の自己評価は、Aランクが9施策、Bランクが5施策、Cランクが8施策、Dランクが0施策、Eランクが0施策で、昨年度と比べAランクが4施策増え、Bランクが4施策減りました。

また、各主要施策の取組や達成状況の自己評価を踏まえた、「重点目標」の評価結果は、以下のとおりとなりました。

重 点 目 標	評 価 結 果	主要施策数
子どもたちの学びと成長を豊かにする教育を推進します。	B（平均3.9点）	8 施策
生涯にわたって、学べる環境づくりを推進します。	B（平均4.2点）	6 施策
歴史を守りながら、芸術・文化の香りが漂うまちづくりを推進します。	B（平均4.0点）	4 施策
運動やスポーツに親しむことができる環境づくりを推進します。	B（平均4.3点）	4 施策

6 主要施策に係る点検評価シート

重点目標 1 子どもたちの学びと成長を豊かにする教育を推進します。

点検評価シート

担当課 学校教育課

主要施策（１）－ ①		確かな学力・豊かな心・健やかな体を育む 教育活動の充実
主な達成目標	- 各校の知・徳・体の調和のとれたカリキュラム・マネジメントを充実させることにより、教育効果を高めます。 ■ 県学力調査 小学校（Ｒ２）県比 1.1～2.7→（Ｒ７）県平均以上を維持 中学校（Ｒ２）県比 -4.6～-0.1→（Ｒ７）県平均 ■ 学校運営調査（小学校英語）肯定的回答（Ｒ２）65.9%→（Ｒ７）80% ■ ４年生以上でタブレットを用いた在宅学習ができる児童生徒の割合（Ｒ２）0%→（Ｒ７）95%	
7年度の取組状況	■ 県学力調査 小学校 県比 1.0～2.0 中学校 県比 -3.9～0.9 ■ 学校運営調査（小学校英語）肯定的回答 92.3% ■ ４年生以上でタブレットを用いた在宅学習ができる児童生徒の割合 100% ○ 各種学力調査を実施し、結果分析を授業改善につなげることとしている。 ○ 学校運営調査実施時に、「雲仙市追加調査」として「外国語活動・英語について」の調査を実施（小学校３年～６年を対象） ・質問「あなたは、先生や友達と英語でやり取りすることが楽しいですか」について回答 ○ タブレットの持ち帰りや在宅学習について、管理職研修や研究発表の指導助言等で繰り返し奨励した。	
評価課題	○ 小学校では、国語が1.0ポイント、算数は2.0ポイント県平均を上回った。 ○ 中学校では、英語が0.9ポイント県平均を上回った。国語は3.9ポイント、数学は1.1ポイント県平均を下回った。 ○ 英語学習に対する肯定的回答の割合が全ての学年において昨年度より3.1ポイント上がり、目標値を大きく超えた。 ○ 小学校全学年の１週間のタブレットを用いた在宅学習の平均回数は、3.2回となり、前年度から0.9回増加した。 ○ 中学校においては、１週間のタブレットを用いた在宅学習の平均回数が5.0回となり、前年度から1.8回増加した。	
自己評価	C	A：計画を上回って進捗 B：計画どおり進捗 C：一部課題はあるが概ね計画どおり進捗 D：計画に全体的な遅れがある E：計画の多くが未達成又は見直しが必要
以降の取組	○ 各種学力調査を軸としたマネジメントサイクルが確立されるよう、校長研修会、教頭研修会等において指導を行っていく。 ○ 授業や家庭学習において「主体的な学び」のツールとして、タブレットを活用するよう、先進校の取組や実践例を発信していく。	

主要施策（１）－ ② （３）－ ①		コミュニティ・スクール導入による教育活動充実	
主な達成目標	・コミュニティ・スクールの連携の核となる学校運営協議会の各校設置を推進します。 ■ 学校運営協議会設置校数（Ｒ２）１校→（Ｒ７）６校		
７年度 の取組 状況	■ 学校運営協議会設置校数 １２校 ○ 雲仙市コミュニティ・スクール導入年次計画に沿ったコミュニティ・スクールの導入推進 ・各小・中学校に、令和６年度に実施したコミュニティ・スクール導入の意向調査を踏まえ、校長研修会等でコミュニティ・スクールについて説明するなどして導入を促した。 ○ 令和８年度導入予定校への依頼及び説明 ・大正小、鶴田小		
評価 及び課題	○ コミュニティ・スクール導入に関する年次計画に基づき、令和９年度までに導入意向のある学校について導入に向けた準備を進めている。 ○ 令和８年度 コミュニティ・スクール導入校 １４校（６３％）		
評価 自己	A	A：計画を上回って進捗 概ね計画どおり進捗 B：計画どおり進捗 C：一部課題はあるが D：計画に全体的な遅れがある E：計画の多くが未達成又は見直しが必要	
降次 の年 取組 度以	○ 令和９年度の新たな導入に向け、意向調査の結果を踏まえながら、未導入校への働きかけを行う。		

主要施策（１）－ ③		教職員研修充実と働き方改革推進	
主な達成目標	・教職員の統合型校務支援システムC４t h活用能力を高め、時間外勤務を縮減します。 ■ 教職員の時間外勤務月平均４５時間超え勤務者数 （R１）小学校３２.６人・中学校５６.８人→（R７）小・中学校０人		
７年度の取組状況	■ 教職員の時間外勤務月平均４５時間超え勤務者数 小学校４.９人・中学校２１.０人 ○ 統合型校務支援システムの雲仙市運用ルールを令和３年度より適用開始 ・出退時刻管理、出席簿管理、成績管理、学校日誌・保健日誌作成等の機能活用による業務の効率化が各学校で進められた。		
評価課題及び課題	○ 統合型校務支援システムの本格運用に伴い、教育委員会への提出物削減につなげることができた。 ○ 時間外勤務縮減については、学校が行っている業務の見直し、年休取得の促進等を継続させ、効率的・効果的な教育活動を更に推進する必要がある。 ○ 教頭の時間外勤務状況は減少傾向にあり、教頭の働き方改革推進の成果が出ている。 ○ 中学校の部活動の地域展開を推進することで、超過勤務削減につながると捉えている。		
自己評価	C	A：計画を上回って進捗 B：計画どおり進捗 C：一部課題はあるが概ね計画どおり進捗 D：計画に全体的な遅れがある E：計画の多くが未達成又は見直しが必要	
次年度以降の取組	○ 令和８年度においてもシステム運用による効率化を更に進めていく。 ○ 「雲仙市立学校の教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画」における時間外在校等時間に関する目標及びワーク・ライフ・バランスや働きがい等に関する目標を、学校経営方針もしくは服務規程に明記させ、時間外在校等時間の削減や年次有給休暇取得を更に促進させる。 ○ 教頭の働き方改革を継続する。 ○ 中学校部活動地域展開の推進を図る。		

主要施策（２）－ ①		安全安心で快適な学習環境づくり	
主な達成目標	・各学校施設の長寿命化計画に基づき、計画的な改修に努めます。 ・快適な学習環境づくりのため、トイレの洋式化を進めます。 ■ 学校のトイレ洋式化率（Ｒ２）３３．７％→（Ｒ７）４２．０％		
7年度 の取組 状況	■学校のトイレ洋式化率 ４４．７％ ○ 学校施設の長寿命化及び快適な学習環境づくり ・老朽化した学校施設の長寿命化を図るため、国の学校施設環境改善交付金や地方債を活用し、校舎外壁等改修工事や屋上防水改修工事等を行った。また、快適な学習環境づくりに向け、トイレの洋式化工事に取り組んだ。 【学校施設環境改善交付金事業】 ・小浜小校舎外壁等改修工事（Ｒ６からの繰越事業） ・西郷小・南串第二小・瑞穂中 校舎等トイレ改修工事実施設計業務 ・西郷小・鶴田小・小浜小・南串第二小・瑞穂中 校舎等トイレ改修工事（Ｒ８への繰越事業） 【大規模改修事業（地方債事業）】 ・土黒小屋内運動場建具改修工事 ・鶴田小渡り廊下改修工事 ・川床小運動場フェンス改修工事 ・愛野小放送設備改修工事 ・小浜中校舎屋上防水等改修工事 【単独整備事業（小規模修繕工事等）】 ・小学校施設単独整備事業（71件） ・中学校施設単独整備事業（51件）		
評価 課題	○ 国の交付金や地方債を活用し、施設の改修工事等を計画どおり実施した。 ○ トイレの洋式化については、計画的な整備により洋式化率の目標を達成することができた。また、次年度に予定していた国の交付金事業について、前倒し申請を行い令和7年度に採択を受けることができた。 ○ 市内小・中学校は建築から40年以上経過している施設が多く、毎年多額の改修費用が必要となっていることから、引き続き有利な財源確保に努め、計画的に施設の長寿命化を図っていく必要がある。		
自己 評価	A	A：計画を上回って進捗 概ね計画どおり進捗 B：計画どおり進捗 C：一部課題はあるが D：計画に全体的な遅れがある E：計画の多くが未達成又は見直しが必要	
次年度 以降の 取組	○ 安全安心な学校施設を維持していくため、引き続き国の交付金や地方債等の有利な財源確保に努め、計画的な改修等に取り組む。 ○ トイレの洋式化については、小・中学校全体で洋式化率70％程度を最終目標として整備を進める。 ○ 照明設備のLED化については、令和8年度から計画的な整備を行い、児童生徒の快適な学習環境づくりと省エネルギー化に取り組む。		

主要施策（２）－ ②		時代に即した情報教育環境の整備
主な達成目標	・情報通信機器及びデジタル教材の計画的な更新及び充実と合わせ、通信環境の整備を行います。 ・すべての教職員がＩＣＴ機器を活用した授業に積極的に取り組めるよう研修を進め、ＩＣＴ機器を用いた授業の円滑な実施を推進します。 ■ 授業中にＩＣＴを活用し指導できる教職員の割合 (R1) 75.3%→(R7) 95% ・児童生徒の情報活用能力を向上させる授業に取り組みます。 ■ インターネットを使って情報を活用することができる児童生徒の割合 「学校運営調査」小学5年生～中学3年生(R1) 69.5%→(R7) 90%	
7年度の取組状況	■ 授業中にＩＣＴを活用し指導できる教職員の割合 85.4% ■ インターネットを使って情報を活用することができる児童生徒の割合 88.9% ○ 時代に即した情報教育環境の整備 ・電子黒板の老朽化に伴い、新たに20台を更新し小学校3校及び中学校3校の学習環境を整備した。 ○ ＩＣＴレベルアップ研修会の実施 ・市内教職員のＩＣＴ活用能力の全体的なレベルアップを図るために、教職員の実態やニーズに合わせた6講座を実施した。のべ116名の参加者があり、ＩＣＴ活用能力の向上を図った。	
評価課題	○ 電子黒板等のＩＣＴ機器については、平成26年度頃から急速に導入が進み、近年老朽化による故障が相次いでいる。 ○ オンライン学習の活用頻度の増加、コンテンツの充実によりインターネット通信の負荷が増加しており通信が不安定な状況である。 ○ 令和7年度「学校における教育の情報化の実態等に関する調査」において、授業中にＩＣＴを活用し指導できる教職員（肯定的解答）は、授業を実施する全教職員（管理職を除く）の85.4%で、R6より2.3ポイント下がっている。 ○ 情報活用に関する肯定的回答の割合が、小学5年生92.3%、6年生92.4%、中学1年生90.4%、2年生90.2%、3年生91.5%であった。	
自己評価	C	A：計画を上回って進捗 B：計画どおり進捗 C：一部課題はあるが概ね計画どおり進捗 D：計画に全体的な遅れがある E：計画の多くが未達成又は見直しが必要
次年度以降の取組	○ 老朽化した電子黒板等の更新を引き続き行う。 ○ 児童生徒が利用するインターネット環境の最適化を行う。 ○ 「教師の学びのスタイルの多様化」並びに「主体的に学び続ける教師の育成」を図るために、教職員のニーズや教育情勢を捉えた研修を企画していく。	

主要施策（３）－ ②		教育相談、不登校児童生徒支援充実	
主な達成目標	・ 不登校児童生徒一人一人の状況に応じて、学校復帰や将来の社会適応に向けた漏れの無い支援を行います。 ■ 支援を要する不登校児童生徒への訪問指導等 （Ｒ１）１００％→（Ｒ７）１００％を維持 ■ 訪問指導員が関わるケース会議・ケア会議 （Ｒ１）１５回→（Ｒ７）２０回		
７年度の取組状況	■ 支援を要する不登校児童生徒への訪問指導等 １００％ ■ 訪問指導員が関わるケース会議・ケア会議 １８回 ○ 「雲仙市児童生徒サポートセンター事業」説明 ・ 年度当初に、市内全小・中学校を訪問し、事業の説明を行い、訪問指導員の活動内容について周知した。 ○ 支援要請があった児童生徒への対応 学校訪問 １２３回 家庭訪問 １０２回 個別指導 ４１０回 電話相談 １回 来所相談 ２回 ※全ての支援要請に対応（１００％）		
評価及び課題	○ 全ての支援要請について、訪問指導員が対応することができた。 ○ ケース会議・ケア会議について、新規に対応を開始する場合や、学校や保護者と共通理解を図る必要がある場合など、状況に応じて実施することができた。		
評価自己	B	A：計画を上回って進捗 B：計画どおり進捗 C：一部課題はあるが概ね計画どおり進捗 D：計画に全体的な遅れがある E：計画の多くが未達成又は見直しが必要	
次の年度以降の取組	○ 年度当初に担当指導主事、訪問指導員、スクールソーシャルワーカーが学校を訪問し、事業説明を行い、周知を図る。 ○ 年度当初に校長研修会・教頭研修会等において事業説明を行い、積極的な活用を促す。 ○ 出席状況が気になる児童生徒について学校と積極的に情報交換を行いながら、訪問指導員の支援が必要な児童生徒について対応する。		

主要施策（３）－ ③		いじめ対策の充実							
主な達成目標	・いじめの早期発見・早期対応により、いじめの深刻化を防ぎます。 ■ いじめ認知から３か月後の解消率 （Ｒ１）１００％ → （Ｒ７）１００％を維持								
７年度 の取組 状況	■ いじめ認知から３か月後の解消率 ９９．５％ ○ 毎学期末、「いじめの認知件数に関する調査」を実施 ・いじめの認知件数 ２６３件 内、認知から３か月経過 １９５件 ※令和８年３月３１日時点 <table><tr><td>①解消しているもの</td><td>１９４件（９９．５％）</td></tr><tr><td>②解消に向けて取組中</td><td>１件（３か月経過済）</td></tr><tr><td>③解消に向けて取組中</td><td>６８件（３か月未経過）</td></tr></table> ○ 市内全小・中学校において、「雲仙市いじめ防止アンケート」を６月または７月に実施した。			①解消しているもの	１９４件（９９．５％）	②解消に向けて取組中	１件（３か月経過済）	③解消に向けて取組中	６８件（３か月未経過）
①解消しているもの	１９４件（９９．５％）								
②解消に向けて取組中	１件（３か月経過済）								
③解消に向けて取組中	６８件（３か月未経過）								
評価 課題	○ いじめの態様としては、「冷やかしかからかい、嫌なことを言われる」の割合が多くを占める。 ○ 小学校において、「パソコンや携帯電話等で嫌なことをされる」の件数が昨年度より増加した。情報モラル教育を更に推進する必要がある。 ○ 中学校において、いじめの認知から３か月経過後も解消に向けて取組中のものが１件ある。								
自己 評価	C	A：計画を上回って進捗 概ね計画どおり進捗 B：計画どおり進捗 D：計画に全体的な遅れがある C：一部課題はあるが E：計画の多く が未達成又は見直しが必要							
次年度 以降の 取組	○ 市内全小・中学校において、「雲仙市いじめ防止アンケート」を６月または７月に実施し、早期発見・早期対応に有効に活用することで、いじめの深刻化を防ぐとともに、「いじめを許さない学校づくり」に資する。 ○ 毎学期末、「いじめの認知件数に関する調査」を実施し、いじめの発生状況を把握するとともに、早期解決に向けた対応について助言する。 ○ スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの活用を含め、学校と連携し、早期解決に向けて支援していく。								

主要施策（３）－ ④		各種就学支援事業の実施	
主な達成目標	・ 事業内容に関する周知に努め、相談に親身に対応するとともに、保護者の困窮状況に早期に対応できるよう、申請から支給までの事務処理期間を短縮します。 ■ 随時申請にかかる申請受付から認定までの期間 （Ｒ１）２週間→（Ｒ７）１０日間		
７年度の取組状況	■ 随時申請にかかる申請受付から認定までの期間 １０日以内 ○ 経済的に困窮している家庭に確実かつ迅速に支援するために、広報や申請処理において学校や各総合支所、学校給食センター等と適切に連携するとともに、就学時健康診断や小・中学校入学説明会等の機会を利用して事業の周知に努めた。 ○ 申請後、速やかに個別認定を行い、受付から支給までの事務処理期間の短縮に努めた。		
評価課題及び課題	○ 広報等を利用し周知に努めたが、申請忘れの保護者もあり、今後も学校等との連携を図り困窮状況に早期に対応できるように努める。		
自己評価	A	A：計画を上回って進捗 B：計画どおり進捗 C：一部課題はあるが概ね計画どおり進捗 D：計画に全体的な遅れがある E：計画の多くが未達成又は見直しが必要	
次年度以降の取組	○ 事業内容に関する周知に努め、相談に親身に対応するとともに、保護者の困窮状況に早期に対応できるよう、学校等と連携し事務処理に努める。 ○ 周知方法は広報紙、ホームページ、学校、関係課窓口でのチラシ等があるが未だに制度を知らない保護者もいる。市公式 SNS 等での周知も検討していく。		

重点目標２ 生涯にわたって、学べる環境づくりを推進します。

点検評価シート

担当課 生涯学習課

主要施策（１）－ ①		多様な生涯学習プログラムの実施
主な達成目標	・ 地域課題や市民ニーズに即した様々な講座を企画します。 ■ 参加者数 （Ｒ１） ４，０５１人→（Ｒ７） ４，５００人 ■ 講座満足度アンケート （Ｒ１） ７７％→（Ｒ７） ９０％	
７年度の取組状況	■ 参加者数 ４，８８１人（延べ） ■ 講座満足度アンケート ９９％ ○ 市民講座の実施 全２００講座 【対象別】 一般成人 ８１講座 …「かわいい多肉植物の寄せ植え♪」ほか 小・中学生 ６０講座 …「♪わくわく Time♪～おかし作り～」ほか 幼児・親子 １３講座 …「ふたたび参上！えほん侍がやってくる」ほか 高齢者 ６講座 …「「カーリングボッチャ」を楽しもう」ほか 男性・その他 ４０講座 …「男性による、男性のためのフラワーアレンジ講座」ほか ○ 広報活動 ・ 広報うんぜん、市ホームページ、自治会回覧「公民館だより」、無線放送、市公式インスタグラム、市公式LINE等	
評価課題	○ 市民ニーズを的確に把握し、多様な講座を企画・実施したことで、高い参加者満足度を得ることができた。一方で、趣味や生活教養講座のみならず、スマホや生成AI活用などのデジタル活用に関する学習など、社会の変化に対応した講座の企画も求められる。	
評価自己	A	A：計画を上回って進捗 B：計画どおり進捗 C：一部課題はあるが概ね計画どおり進捗 D：計画に全体的な遅れがある E：計画の多くが未達成又は見直しが必要
降次の取組	○ 少子高齢化や家庭教育支援など、社会全体での取り組みが必要な地域課題に向き合うため、ネット配信による講座の企画をはじめ、公民館の「つどう・まなぶ・むすぶ」機能を十分に生かし、自治会や自治公民館と協力した地域課題解決型の講座を企画するなど、地域住民の主体的な学びの機会を提供していく。	

主要施策（１）－ ②		市民のニーズに応じた図書館・図書室運営の充実
主な達成目標	・図書館等の貸出利用サービス数の増加を図ります。 ■ １人当たり貸出冊数 (R1) 4.8冊→(R7) 5.5冊 ■ 貸出冊数 (R1) 211,492冊→(R7) 220,000冊	
7年度の取組状況	■ １人当たり貸出冊数 4.1冊 ■ 貸出冊数 165,677冊 ○ 図書館等（図書館１館、図書室６室）の状況 ・蔵書冊数（視聴覚資料含む） 238,631冊 ・利用者数 37,035人 ・図書購入冊数 8,500冊 ・移動図書館巡回箇所 54カ所 ○ 令和４年３月に策定した第２次雲仙市読書活動推進計画における基本目標を「読書活動を活性化するための関係者の連携強化と年齢に応じた読書活動の支援」とし、実現するための取り組みを令和８年度までの計画期間において進めていく。 ○ 読書推進イベントを開催し、読書活動の推進に努めた。 ○ 図書システムにより、ホームページで登録するとスマートフォンで利用者カードが使用可能であり、館内検索システムで資料予約も可能。	
評価課題	○ スマートフォン等の普及により活字離れが進んでいることが推察される。蔵書の充実と情報発信に努め、各種企画を通じて読書に関する理解や関心を高めていく必要がある。	
自己評価	C	A：計画を上回って進捗 B：計画どおり進捗 C：一部課題はあるが概ね計画どおり進捗 D：計画に全体的な遅れがある E：計画の多くが未達成又は見直しが必要
次年度以降の取組	○ 利用者のニーズに応じた読書環境の整備に努める。 ○ 関係機関、図書ボランティア団体等と連携を深め地域ぐるみで読書活動を推進する体制づくりを進める。 ○ 市民が図書館、図書室を学びの場、自己研鑽の場として活用するために図書ボランティア、市民を対象とした研修会、イベント等を積極的に開催する。	

主要施策（１）－ ③		各種文化団体の活動支援
主な達成目標	・雲仙市文化連盟を構成する各町文化協会及び雲仙市文化会館自主文化事業振興会を支援し、市民主体の文化活動の振興を図ります。 ■ 市内文化事業開催数 （Ｒ１） １５回→（Ｒ７） １６回 ■ 市内文化事業参加者数（Ｒ１）４，６１２人→（Ｒ７）５，０００人	
７年度の取組状況	■ 市内文化事業開催数 ２１回 ■ 市内文化事業参加者数 ３１，２５７人 ○ 市民主体の文化活動 市民の活発な芸術文化活動を推進するため、雲仙市文化連盟が中心となり、雲仙市民芸術祭、雲仙市美術展覧会、各町文化祭を開催した。 ・第１９回雲仙市民芸術祭 １１月３０日（日）（ハマユリックスホール） ３７９人 ・第２０回雲仙市民美術展覧会 ２月５日（木）～８日（日）（愛の夢未来センター） ６４５人 【各町文化祭】 ・令和７年度国見秋の文化祭 ６１０人 ・令和７年第４７回瑞穂町文化祭 １，４５０人 ・第２９回吾妻町文化協会発表会 ４１８人 ・第３２回愛のまち文化フェスティバル ２，５９４人 ・第５３回千々石町文化祭 ４９１人 ・第４６回小浜町文化祭 ９９４人 ・第３５回南串山町文化祭 ３６６人 ・雲仙市文化会館自主文化事業振興会主催事業（４事業） ８５７人 ○ ながさきピース文化祭 2025 ・囲碁の祭典～熱量日本一の噴湯 小浜温泉で、奮闘 囲碁大会～ ３４８人 ・神代小路伝建地区～くうじの灯りフェスタ～ １，９４７人 ・雲仙ゆかりの画家特別展 ８２５人 ・プロジェティスタ城谷耕生～イタリアから雲仙小浜へ ひとりのデザイナーの軌跡～ １，９７０人 ・コンテンポラリーダンスイベント「EXISTENCE」 ５４２人 ・東アジアユースオーケストラ演奏会とワークショップ ８６８人 ・ふくしアートパネル展 １５，４７８人 ・ふれあい和太鼓ワークショップ ４７５人	
評価課題	○ 雲仙市文化連盟の組織強化や会員相互の交流活性化を引き続き図っていく必要がある。令和７年度は「ながさきピース文化祭 2025」にて、雲仙市の地域資源を生かした文化事業を多く開催することができた。今後は得られた成果をもとに地域課題解決につながる文化事業や組織のあり方について研究が必要である。	
評価自己	A	A：計画を上回って進捗 B：計画どおり進捗 C：一部課題はあるが概ね計画どおり進捗 D：計画に全体的な遅れがある E：計画の多くが未達成又は見直しが必要
降次の取組	○ ながさきピース文化祭 2025 開催成果や知見を生かし、自主文化事業をはじめ、雲仙市文化連盟による市民芸術祭や市美術展覧会を開催する。 ○ 雲仙市文化連盟、雲仙市文化会館自主文化事業振興会の、自立した組織のあり方を研究する。	

主要施策（２）－ ①		地域に根差した青少年の健全育成の推進
主な達成目標	・「雲仙市家庭教育 7 か条」の認知度アップに努めます。 ■ 保護者認知度 (R 2) 58.4%→(R 7) 80% ・小・中学校入学説明会等で、メディア安全指導の指導講習会を開催します。 ■ メディア安全指導開催数 (R 1) 26回→(R 7) 30回	
7 年度の取組状況	■ 保護者認知度 43% ■ メディア安全指導開催数 25回 ○ 「雲仙市家庭教育 7 か条」「ココロねっこ運動」「家庭の日」の啓発、推進 ・イベント、大会での周知のほか、各町『公民館だより』による広報活動を行った。 ・家庭教育 7 か条のクリアファイルを小学 1 年生から中学 2 年生児童生徒の保護者へ配布し啓発活動を行った。 ○ メディア機器の安全使用に係る啓発 ・メディア機器利用にかかる事件事故、健康被害等を未然に防ぎ、メディアを安全快適に活用する社会を形成するため、メディア安全指導を実施した。 ・市内小・中学校の新入学児童生徒保護者説明会時にメディア安全講話開催 ・PTAなどを対象としたメディア安全講演会の実施 ・PTAと協働したメディア安全啓発にかかる市統一ルールリーフレットの配布	
評価検証 及び課題	○ 「ココロねっこ運動」や「家庭の日」の啓発、推進については、広報紙での周知の他、『公民館だより』に毎号掲載するなど周知に努めた。少年の主張大会は、小・中学生を出場対象とし実施した。家庭教育 7 か条啓発のためクリアファイルを小学 1 年生から中学 2 年生児童生徒の保護者へ配布した。 ○ メディア接触やメディア所持の低年齢化の現状を受け、子どもを取り巻くメディア環境への安全指導を実施した。今後は幼年期保護者も対象に広げ実施していく必要がある。	
自己評価	C	A：計画を上回って進捗 B：計画どおり進捗 C：一部課題はあるが概ね計画どおり進捗 D：計画に全体的な遅れがある E：計画の多くが未達成又は見直しが必要
次年度以降の取組	○ 「雲仙市家庭教育 7 か条」等の周知啓発を、「広報うんぜん」の「ぽかぽかフォトスナップ」連載等において取り組むとともに、生涯学習講座等の開催により家庭及び地域の教育力を高める。 ○ 各学校及び市PTA連合会等と協力し、子どもたちのメディア機器へのかかわりに関する実態調査の結果を踏まえ、課題に即した啓発活動を行う。	

主要施策（２）－ ②		一人一人が認めあう人権意識の啓発												
主な達成目標	・多くの人が関心を持てるような講演会の実施や人権映画の上映、人権啓発チラシの配布等を行い、人権について考える機会を設けます。 ■ 人権講演会開催学校数（Ｒ２まで）１９校→（Ｒ７） ２４校 ■ 人権教育講座受講者数（Ｒ１） ２７人→（Ｒ７） ５０人													
７年度の取組状況	■ 人権講演会開催学校数 ３１校 ■ 人権教育講座受講者数 １４人 ○ 令和７年度雲仙市人権講演会「瑞宝太鼓『夢大使』講演会」 市内小・中学校において、４講演を実施した。（市主催県補助金活用事業） 対象者：各校児童生徒、教職員、保護者等 ＜開催校、参加者、開催日＞ <table border="0"> <tr> <td>大塚小学校</td><td>１９０名</td><td>令和７年１２月２日（火）</td></tr> <tr> <td>千々石第一小学校</td><td>１６０名</td><td>令和７年１２月２日（火）</td></tr> <tr> <td>千々石中学校</td><td>１１０名</td><td>令和７年１２月８日（月）</td></tr> <tr> <td>国見中学校</td><td>２５０名</td><td>令和７年１２月８日（月）</td></tr> </table> ○ 市民講座において、男女共同参画社会の実現を目指した講座に取り組んだ。		大塚小学校	１９０名	令和７年１２月２日（火）	千々石第一小学校	１６０名	令和７年１２月２日（火）	千々石中学校	１１０名	令和７年１２月８日（月）	国見中学校	２５０名	令和７年１２月８日（月）
大塚小学校	１９０名	令和７年１２月２日（火）												
千々石第一小学校	１６０名	令和７年１２月２日（火）												
千々石中学校	１１０名	令和７年１２月８日（月）												
国見中学校	２５０名	令和７年１２月８日（月）												
評価課題	○ 人権講演会では、講話、演奏、ワークショップを実施した。参加児童生徒からは、「障がいがあるという理由でいじめられるのは公平ではないと思った」「相手の個性を認めることはとても大切だと感じた」「努力を継続すれば夢は叶うと思った」などの感想が寄せられ、障がいがある方への理解が深まっていることが確認できた。 ○ 本市を拠点に活躍する知的障がいがある和太鼓集団「瑞宝太鼓」を講師とした講演会の実施により、参加者がより身近に障がいのある方への理解を深め、それぞれの立場で一生懸命取り組むことの大切さを感じさせることができた。 ○ 市民が関心を持ちやすい内容やテーマを考慮し、人権意識の啓発に取り組む必要がある。													
自己評価	B	A：計画を上回って進捗 B：計画どおり進捗 C：一部課題はあるが概ね計画どおり進捗 D：計画に全体的な遅れがある E：計画の多くが未達成又は見直しが必要												
次年度以降の取組	○ 児童生徒を対象とした「瑞宝太鼓『夢大使』講演会」や市民講座における人権教育講座等を開催するほか、広報紙、ホームページ等で広く市民へ呼びかける。 ○ より多くの市民に人権意識の啓発を図ることを目的に、人権週間（１２月）にあわせて広報紙に特集を組むなど人権教育事業を行う。 ○ 市民講座において、男女共同参画社会の実現を目指した講座に取り組む。													

主要施策（３）－ ①		学びの場としての社会教育施設の適正な管理運営
主な達成目標	- 公共施設等総合管理計画個別施設計画に基づき、計画的な改修等を行います。 - Wi-Fi 環境を整備し、リモート学習の場を提供します。 ■ Wi-Fi 環境施設（Ｒ１）０施設→（Ｒ７）７施設	
７年度の取組状況	■ Wi-Fi 環境施設 ７施設 ○施設整備 ・国見町文化会館空調設備改修工事 工期 9/19～3/24 ・旧小浜文化館解体工事 工期 7/23～2/27 ・旧小浜文化館解体工事監理業務 工期 7/17～3/23 ・南串山文化センター解体工事実施設計業務 工期 6/13～9/10	
評価課題	○ 所管する社会教育施設の老朽化に伴い、設備の大規模改修等を行った。所管する社会教育施設の老朽化が進み、大規模修繕が必要な箇所が今後も想定されており、中長期の計画的な整備を今後も図る必要がある。 ○ 個別施設計画に基づき、千々石町公民館の建替について、今後早急に検討を進める必要がある。	
自己評価	A	A：計画を上回って進捗 概ね計画どおり進捗 B：計画どおり進捗 D：計画に全体的な遅れがある C：一部課題はあるが E：計画の多くが未達成又は見直しが必要
次年度以降の取組	○ 吾妻町ふるさと会館トイレ改修工事 ○ 吾妻町ふるさと会館空調設備更新工事実施設計業務 ○ 南串山文化センター解体工事 ○ 南串山文化センター屋外トイレ設置工事実施設計業務	

重点目標3 歴史を守りながら、芸術・文化の香りが漂うまちづくりを推進します。

点検評価シート

担当課 生涯学習課

主要施策（１）－ ① 郷土の歴史・文化の継承	
主な達成目標	- 指定文化財の保存・活用のため、貴重な資料の指定、登録を行います。 - 各種保存会との連携を図り、郷土芸能団体の継続的な活動を支援します。 - 郷土資料の調査整理を行うとともに、歴史講座の開催に努めます。 ■ 歴史講座数 （Ｒ１）２回→（Ｒ７）５回
7年度の取組状況	■ 歴史講座数 １５回 - 市指定文化財の検討や、他市町の先進事例を学ぶため、文化財保護審議会を１回開催した。 - 雲仙市内のハタ揚げ文化を保存継承していくため、愛のまち剣舞箏保存会と連携し、ハタ揚げの実施や地元小学生へのハタ作り指導を行った。 また、団体へ年間の活動謝礼金を支払った。 愛のまち剣舞箏保存会 ５０千円 - 郷土の歴史を学び、市内で行われている発掘調査の成果を市民へ普及するため、市民講座を実施した。 考古学講座 １回 「ながさきピース文化祭 2025」関連講座 日本昔話研究の開拓者 関敬吾の生い立ちから研究内容について学ぶ市民講座を実施した。 市民講座 １回 特別展 １回 - 神代小路緋寒桜の郷まつり期間中に、まち歩きガイドツアーと神代の歴史を学ぶ市民講座を実施した。 市民講座 １回 - 古文書を読みながら地域の歴史を学ぶ講座を開催した。 古文書の読み方講座 １０回 - 夏休み講座 まが玉づくり ２地域 ２回 ３２人
及び評価課題	- 文化財保護審議会を開催し、市内文化財の調査研究を行った。 - 郷土芸能については、ハタ揚げ文化のみ現在支援しており、その他郷土芸能について調査研究が必要である。
評価自己	A A：計画を上回って進捗 B：計画どおり進捗 C：一部課題はあるが概ね計画どおり進捗 D：計画に全体的な遅れがある E：計画の多くが未達成又は見直しが必要
降の取組	- 市指定文化財の候補があり、指定に向けて文化財保護審議会と調査研究していく。 - 郷土芸能については、保存団体と連携し保存継承に努める。 - 歴史講座を開催し、市民に雲仙市の歴史や文化財の魅力の普及啓発を行う。

主要施策（１）－ ②		伝統的建造物群保存地区事業の推進
主な達成目標	・修理修景事業を推進し、伝統的まちなみ景観の整備を図ります。 ・地元自治会や地元ＮＰＯ法人等と連携し、まちなみを活用した地域活性化に取り組みます。 ・旧鍋島家住宅の保存修理を進め、地域の核となる建物として活用を図ります。 ■ 鍋島邸入館者数（Ｒ１）６，０２６人→（Ｒ７）８，０００人	
７年度の取組状況	■ 鍋島邸入館者数 ６，５３２人 ○ 庭園の樹木の剪定等による管理、樹勢の衰えた樹木の回復措置を行い、庭園の適正な維持管理を行った。 ○ 「ながさきピース文化祭 2025」の地域文化発信事業として、竹灯籠やプロジェクションマッピングによるライトアップを実施し、鍋島邸の夜間開放を実施した。 ○ ２月１４日～３月１日に地元団体が主催する「緋寒桜の郷まつり」の期間にあわせて、まち歩きガイドツアーと神代の歴史を学ぶ市民講座や、国見展示館において「神代鍋島家と武具展」を実施した。 また、観光物産課と連携し、長崎日本大学高等学校のデザイン美術科の伝建地区におけるアート展を実施した。	
評価課題	○ 伝建事業については、文化庁及び県学芸文化課の指導を受けながら、補助事業を活用した修理修景事業を実施することができた。 ○ 旧鍋島家住宅の老朽化が進行しており、今後、全体的な修理を行う必要がある。 ○ 鍋島邸の入館者数について、令和７年度は「ながさきピース文化祭 2025」に関連するイベントを開催したことにより、入館者数が増加した。 緋寒桜の時期以外にも入館者数を維持できるような工夫を行っていく必要がある。	
評価自己	C	A：計画を上回って進捗 B：計画どおり進捗 C：一部課題はあるが概ね計画どおり進捗 D：計画に全体的な遅れがある E：計画の多くが未達成又は見直しが必要
降次の取組	○ 引き続き、国、県の補助金を活用した修理修景事業を実施する。 ○ 旧鍋島家住宅の修理に向けた協議を行う。 ○ 地元団体と連携したイベントを開催する。 ○ 観光物産課や自治会等と連携し、より良い伝建地区の活性化に向け定期的に協議を行う。	

主要施策（１）－ ③		開発事業に伴う埋蔵文化財の適切な保存活用	
主な達成目標	・市内各種開発事業に伴う発掘調査事業を実施します。 ・雲仙市歴史資料館における発掘調査成果の公開・活用を図ります。 ■ 国見展示館入館者数（Ｒ１）１，０１８人→（Ｒ７）１，５００人		
７年度の取組状況	■ 国見展示館入館者数 ２，３９１人 ○ 国見地区基盤整備事業に伴う発掘調査（報告書作業） 基盤整備事業に伴う発掘調査報告書の作成を行った。 ・これまでに、縄文時代の土器や石器、古墳時代の住居跡、中世の炭焼き窯跡、県内最大規模と考えられる 100 基を超える中世墓が発見された。 ○ 吾妻地区基盤整備事業に伴う上熊崎遺跡の発掘調査（２，０７４㎡） 基盤整備事業に伴う発掘調査により遺跡の消滅する部分の発掘調査を行った。 ・縄文時代の土器や石器、弥生時代～古墳時代の河川跡や全国的にも例の少ない木製品水漬跡、中世の水田跡、県内初となる水田に残った足跡、近世の水田跡が発見された。 ○ 南串山地区基盤整備事業に伴う八石原東遺跡の発掘調査（２４８㎡） 基盤整備事業に伴う発掘調査により遺跡の消滅する部分の発掘調査を行った。 ・縄文時代の土器や石器が発見された。 ○ 市内遺跡発掘調査 市内の各種開発事業に伴い遺跡の内容確認（試掘）調査を実施した。（８件） ・調査の結果に合わせて、文化財の保護を講じるよう指導を行った。 ○ 国見展示館企画展等 ・「長崎県の銅鏡」「雲仙市内の「旧石器時代の石器」展示」「神代鍋島家と武具展」 １，４４９人 ・夏休み講座 まが玉づくり ２地域 ２回 ３２人 ・社会科見学 市内小・中学校 ６校 １４２人		
評価課題	○ 県営基盤整備事業に伴う発掘調査については計画どおり進めることができた。今後も整備事業の計画があり、関係各所と連携し埋蔵文化財の保護に取り組む必要がある。 ○ 発掘調査成果の企画展等計画し、今後も市内文化財の周知を図っていく必要がある。 ○ 国見展示館の企画展なども充実させ、市民へ文化財全般の周知普及に取り組む必要がある。		
自己評価	A	A：計画を上回って進捗 B：計画どおり進捗 C：一部課題はあるが概ね計画どおり進捗 D：計画に全体的な遅れがある E：計画の多くが未達成又は見直しが必要	
次の年度以降の取組	○ 開発に伴う発掘調査及び報告書作成、現地説明会等を行い、調査成果の活用を図る。 ○ 国見展示館等での企画展等を通して、調査成果の周知と歴史学習に寄与する。 ○ 文化財保護啓発冊子の作成を行い、文化財保護に取り組む。 ○ 神代城（鶴亀城）跡の現地調査を行い、保存活用に取り組む。		

主要施策（２）－ ①		市民団体と連携した文化芸術活動の推進	
主な達成目標	- 子どもを対象とした文化芸術体験事業及びアウトリーチ事業を開催します。 - 市内文化会館自主事業において、参加者の増加を図ります。 ■ 自主事業数 (R 1) 9 回→ (R 7) 1 0 回 ■ 自主事業参加者数 (R 1) 2, 8 9 1 人→ (R 7) 3, 0 0 0 人		
7 年度 の取組 状況	■ 自主事業数 4 回 ■ 自主事業参加者数 8 5 7 人 ○ 雲仙市文化会館自主文化事業振興会主催事業 市民のニーズにあった文化芸術鑑賞の機会を充実させるため、雲仙市文化会館自主文化事業振興会による自主文化事業を開催した。 ・ 雲仙市市制 2 0 周年記念 雲仙市としょかんまつり特別企画 絵本作家きむらゆういちワークショップ＆講演会「絵本が育てる子どもの夢」 5 月 1 1 日 (日) (国見町文化会館) 来場者 1 1 9 人 ・ 雲仙市市制施行 2 0 周年記念事業 草野仁 講演会「いつもチャレンジ精神で」 1 2 月 1 4 日 (日) (吾妻町ふるさと会館) 来場者 1 2 2 人 ・ 雲仙市市制施行 2 0 周年記念事業 「みやぞんと笑って雲仙にじゅうまる」 1 月 1 8 日 (日) (ハマユリックスホール) 来場者 4 2 1 人 ・ アイリッシュミュージック「アイルランドの響き」 3 月 1 5 日 (日) (愛の夢未来センター) 来場者 1 9 5 人 ※令和 7 年度は、「ながさきピース文化祭 2 0 2 5」の開催に伴い、自主文化事業については事業数を減らし、縮小して開催した。		
評価 課題	○ 地域課題解決につながる文化事業や組織のあり方について研究が必要である。 ○ 自主文化事業開催補助金を有効活用し、限られた予算の中でさらなる事業効果を高める必要がある。		
評価 自己	C	A：計画を上回って進捗 概ね計画どおり進捗 B：計画どおり進捗 D：計画に全体的な遅れがある C：一部課題はあるが E：計画の多く が未達成又は見直しが必要	
降 の取組 年度以	○ 市民のニーズを反映した自主文化事業を開催する。 ○ 自主文化事業振興会の自立した組織のあり方を研究する。		

重点目標４ 運動やスポーツに親しむことができる環境づくりを推進します。

点検評価シート

担当課 スポーツ振興課

主要施策（１）－ ①		運動・スポーツの日常化の推進
主な達成目標	・レクリエーション協会、総合型地域スポーツクラブの加盟団体及び会員数を増やし、市民の軽スポーツ人口の拡大のための支援を行います。 ■ レクリエーション協会加盟団体（Ｒ２）５団体→（Ｒ７）６団体 ■ 総合型地域スポーツクラブの会員数（Ｒ２）１７６人→（Ｒ７）２００人 ・雲仙市スポーツ協会等と連携してスポーツ教室を開催し、市民及びスポーツが苦手な小学生に対し、スポーツに親しむ機会を拡大させます。 ■ スポーツ団体が主催する教室（Ｒ２）２教室→（Ｒ７）３教室	
７年度の取組状況	■ レクリエーション協会加盟団体 ４団体 ■ 総合型地域スポーツクラブの会員数 １８０人 ■ スポーツ団体が主催する教室 ２教室 ○ 軽スポーツ団体の支援 雲仙市レクリエーション協会及びがまだすスポーツクラブにおける活動の充実や組織の拡充を図るため、それぞれの団体に対して支援等を行った。 【雲仙市レクリエーション協会】・構成団体数：４団体 構成人数：１４１人 【がまだすスポーツクラブ】・種目数：４種目 会員数：１８０人 ○ スポーツ教室等の実施 運動機会の提供・紹介のための軽スポーツ等の教室を実施した。 ・ヘルスアップスクール（延べ参加人数：１０１人） ・ドッジボール教室（延べ参加人数：１２３人） ○ 体力測定会の実施 自分の体力年齢などを知る機会として、体力測定会を実施した。 (参加人数：３３人) ○ 市民ラジオ体操会の実施 市内７会場（７町）一斉にラジオ体操会を実施した。(参加人数：５２２人) ○ 雲仙市市制施行２０周年記念事業第８回雲仙市民運動会の実施 市民一体感の醸成と親睦融和の精神を育むことを目的とし、記念大会を実施した。 (参加人数：約３，５００人)	
評価課題	○ 軽スポーツ団体の支援については、団体数は昨年と同数であったものの会員数については、微増ではあるが増加した。団体数の増加は容易ではないものの、それぞれの団体において意欲的に活動に取り組んでいる。 ○ スポーツ教室等については、ヘルスアップスクール、ドッジボール教室を開催し、市民がスポーツに親しむ機会の提供ができた。 ○ ２年ぶりに市民運動会を開催し、多くの市民の参加を得ることができた。	
自己評価	A	A：計画を上回って進捗 B：計画どおり進捗 C：一部課題はあるが概ね計画どおり進捗 D：計画に全体的な遅れがある E：計画の多くが未達成又は見直しが必要
降次の取組	○ 幅広い年代を対象にした各種大会や教室等の開催に向けた取組を行う。 ○ ラジオ体操の推進については、引き続き市民ラジオ体操会を開催するとともに、各種大会や企業等においてラジオ体操を取り入れてもらうよう推進を図る。 ○ 市民運動会については、今後のあり方等を各種団体や自治会長の意見を伺いながら、関係機関等と連携し、調整を図っていく。	

主要施策（１）－ ②		スポーツ競技力向上とジュニアスポーツの推進
主な達成目標	・スポーツ協会と連携し市民の競技力向上と競技人口の拡大を図ります。 ■ スポーツ協会加盟団体数（Ｒ２）１９団体→（Ｒ７）２１団体 ■ 小学生クラブ活動振興会加盟団体数（Ｒ２）５１団体→（Ｒ７）５４団体 ・ジュニアスポーツの推進については、健康な身体づくりを推進しながら、練習時間及び休養日の設定を遵守させ、過重な指導の防止を図ります。 ■ 少年スポーツの現状に合った講習会の開催（Ｒ２）１回→（Ｒ７）１回	
７年度の取組状況	■ スポーツ協会加盟団体数 １８団体 ■ 小学生クラブ活動振興会加盟団体数 ４８団体 ■ 少年スポーツの現状に合った講習会の開催 １回 ○ スポーツ協会の運営支援 市民スポーツ大会をはじめとする市民の各種競技会の開催、競技力向上や競技人口の拡大のための講習会や教室を行う雲仙市スポーツ協会の活動支援を行った。 ・スポーツ協会加盟団体 １８競技団体（１,３３４人） 補助金 １６,９２９千円 ・市民スポーツ大会開催支援 １８競技（１,４０８人） 補助金 １,３７６千円 ・Ｒ７.１１ 県民スポーツ大会出場に係る経費の一部を助成 １８競技 ４９４人 ○ 補助金等による経済的支援 優秀な成績で上位大会へ出場する選手や団体に対して激励費を交付し、負担の軽減と意識の高揚を図った。 ・スポーツ大会出場激励費の交付 件数：２１７件 激励費：８,１１０千円 ○ 振興会等団体に対する活動・運営支援 少年期における健康な身体づくりと、将来のスポーツ活動への意欲を育むため、小学生クラブ活動振興会に対し、運営経費の一部を助成して、その活動を支援した。 ・団体数：４８クラブ 構成部員数：５７１人 補助金 ２,０９３千円	
評価検証 及び課題	○ スポーツ協会の運営支援については、各種事業を計画どおりに開催することができた。 ○ 補助金等による経済的支援については、全国大会等への出場団体数が昨年度に比べ減少したことに伴い、交付件数や交付額も減少したが、大会出場の経費負担の軽減と意識の高揚が図られた。 ○ 振興会等団体に対する活動・運営支援については、各団体に対して運営のための経費の一部を助成することにより活動の支援を行った。	
評価 自己	B	A：計画を上回って進捗 B：計画どおり進捗 C：一部課題はあるが概ね計画どおり進捗 D：計画に全体的な遅れがある E：計画の多くが未達成又は見直しが必要
降の取組 次年度以	○ スポーツ協会の運営支援を継続するとともに、各競技団体が行う大会及び教室開催等の活動を支援し、スポーツ人口の増加を図る。 ○ 競技力の向上及び優秀選手の育成のため、ジュニアスポーツの推進とスポーツ協会各競技団体等の競技力向上に向け、引き続き補助金等による経済的支援を行うとともに、指導者向けの講習会などを開催する。 ○ 雲仙市立中学校部活動地域展開に伴う平日の部活動について、令和１３年度完全地域展開へ向けての取組連携を図る。	

主要施策（２）－ ①		社会体育施設の整備と民間活力の導入	
主な達成目標	・社会体育施設（設備・備品）の適正な管理運営については、定期的に安全点検を実施し、必要があれば交換、修繕等を迅速に行い使用者が快適に利用できる環境を確保します。 ■ 定期的な点検（Ｒ２）不定期→（Ｒ７）６回／年（１回／２ヶ月） ・適切な利用のための予約制度システムを導入します。 ■ 予約制度システム（Ｒ２）未導入→（Ｒ７）導入完了 ・指定管理制度による民間活力の導入に向けて調査・研究を進めます。 ■ 指定管理施設（Ｒ２）２施設→（Ｒ７）３施設		
7年度の取組状況	■ 定期的な点検 6回／年 ■ 予約制度システム 導入完了 ■ 指定管理施設 2施設 ○ 社会体育施設（設備・備品）の点検等 定期的に社会体育施設の点検等を行い、修繕等が必要な箇所について早期の対応を行った。 ○ 予約制度システムの導入 令和5年度に社会体育施設等の新たなウェブ予約システムを導入した。 ○ 指定管理者制度による民間活力の導入 指定管理者制度による民間企業のノウハウ等を導入した施設の運営に努めた。 【国見総合運動公園（遊学の里くにみ）】 指定管理者：株式会社 NSP 指定管理契約期間：令和5年4月1日～令和9年3月31日（4年間） 指定管理料：33,700 千円（R 7年額）不可抗力費用負担 2,962 千円 【リフレッシュセンターおばま】 指定管理者：シダックス大新東ヒューマンサービス株式会社九州・沖縄支店 指定管理契約期間：令和5年4月1日～令和9年3月31日（4年間） 指定管理料：26,100 千円（R 7年額）		
評価検証及び課題	○ 社会体育施設の老朽化に伴う施設の破損や機器類の故障等への対応として、定期的な点検や見回りを強化し、早期の改修に努め、利用者への影響を最小限に留めた。 ○ 「国見総合運動公園（遊学の里くにみ）」及び「リフレッシュセンターおばま」については、空調機器などの設備更新を行い、また、要望や課題等の情報を共有しながら丁寧に対応し、施設の運営やサービスの向上に努めた。		
評価自己	B	A：計画を上回って進捗 B：計画どおり進捗 C：一部課題はあるが概ね計画どおり進捗 D：計画に全体的な遅れがある E：計画の多くが未達成又は見直しが必要	
降の取組次年度以降	○ 市内社会体育施設について老朽化が進んでいるため、公共施設等総合管理計画に基づき施設の統廃合や民間活力の導入等に向けた検討を行いながら、施設の改修や修繕についても計画的な施設改善を図る。 ○ 両指定管理施設について、指定管理者と連携を図り、安定した施設運営を継続するとともに、管理運営方式について再検討を行い、最適な管理方法により令和9年度からの施設管理を目指す。		

主要施策（２）－ ②		地域資源を生かしたスポーツツーリズムの推進
主な達成目標	・スポーツ合宿の誘致に努めます。 ■ スポーツ合宿の誘致（Ｒ２）０団体→（Ｒ７）年間２団体 ・平日のスポーツ大会の誘致に努めます。 ■ 平日のスポーツ大会の誘致（Ｒ２）０大会→（Ｒ７）年間２大会 ・スポーツ大会並びに障害者スポーツ大会やスポーツ合宿の誘致及び平日のスポーツ大会の誘致を行いながら、観光関係団体等と連携を図り、市民が「支える」スポーツ環境を整備します。	
７年度の取組状況	■ スポーツ合宿の誘致 １団体 ■ 平日のスポーツ大会の誘致 １大会 ○ スポーツ合宿、大会等の誘致 ・スポーツツーリズムの所管課である観光物産課と連携を図りながら合宿及び大会等の誘致に取り組み、合宿については、バドミントンの強豪校である「瓊浦高校バドミントン部」がインターハイ及び国民スポーツ大会前合宿を行った。令和７年度の主な大会として、令和４年４月に市と協定を締結した九州大学バスケットボール連盟の年３回の大会をはじめ、国民スポーツ大会第４５回九州ブロック大会のボクシング競技を開催することができた。 ○ 平日のスポーツ大会の誘致 ・九州大学バスケットボール連盟の３大会のうち、１大会が平日開催されている。 ○ 観光関係団体等と連携を図り、市民が「支える」スポーツ環境の整備 ・九州大学バスケットボール連盟の大会について、大会の回数を重ねるにつれ旅館やホテルなどの宿泊事業者側とチーム側の関わりもできており、地域としても大学生が試合で活動していることへの認知が高まっている。	
評価課題	○ 小浜体育館の供用開始から継続的な誘致活動を行い、合宿や大会等の誘致に繋げることができた。国民スポーツ大会九州ブロック大会（ボクシング競技）の開催など、令和５年度に誘致に伺った大会についても実施することができた。 ○ スポーツツーリズムの推進にかかる機運の醸成を図るため、観光関係団体やスポーツ関係団体等との連携強化が必要である。	
評価自己	B	A：計画を上回って進捗 B：計画どおり進捗 C：一部課題はあるが概ね計画どおり進捗 D：計画に全体的な遅れがある E：計画の多くが未達成又は見直しが必要
降の取組	○ これまで誘致したスポーツ大会等の継続的な開催をはじめ、新たな大会等の誘致に向けた取組を更に加速させるため、観光関係団体やスポーツ関係団体等との連携強化に努める。 ○ 市内社会体育施設を有効に活用し、スポーツ大会のみならず、各種大会やイベント等の誘致に取り組む。	

7 学識経験者の所見

(1) 点検・評価に対する総評

令和7年度は、令和3年度からの5か年を期間とする「雲仙市教育振興基本計画（第2期）」の最終年度で、これまでの5か年を総括した成果と課題が今後の具体的な取組に反映されることになります。

「雲仙市教育振興基本計画（第2期）」で設定されている4つの重点目標の本年度の評価結果を見ると全てが「B」であり、昨年度と変わりありませんでした。しかし、22項目それぞれの主要施策の評価を見ると、「C」ランク8、「D」・「E」ランク0という結果も昨年度同様でしたが、「A」ランク9、「B」ランク5と、4つの施策で「B」・「C」ランクから「A」ランクに伸びていました。本計画5か年の推移を見ても、全ての主要施策で着実な伸びが見て取れました。

主要施策の主な達成目標の中には困難度が高いと思われるものが散見されましたが、管理・執行に際して適切なマネジメントサイクルが行われ、効果的に改善が重ねられたことにより、確かな伸びにつながったことを高く評価します。

重点目標1については、学校現場の実情把握に努められ、丁寧な指導助言と学校からの多様な要請等への迅速な対応がなされています。施策の評価には各学校の教育活動の成果が影響する項目がありますので、今後も各学校との確固たる連携の維持を望みます。

重点目標2については、市民の生涯学習につながるサービスが充実しており、利用者のニーズに応じた対応がなされています。

重点目標3については、催しや活動の推進に関する取組が充実しています。施設・設備の維持・管理に係るご尽力の様子も容易に想像できます。

重点目標4についても、催しや活動の推進に関する取組が充実しています。

ただ、いずれにしても、取組の充実度に対し、その利用者や参加者・関係者の拡充の面では期待した成果につがっていない項目がありました。保護者や地域の方々の実態把握と、その実態に見合う周知・啓発のありかたに改善の余地があるのではないのでしょうか。

全体として、魅力ある、また、確かな施策が展開されていますので、雲仙市総合計画で掲げられた基本方針に示された「将来を担う人財づくりと歴史と文化が輝く郷土づくり」の実現に向け、今後の成果が大いに期待できます。

(2) 「重点目標」に係る主要施策ごとの評価

重点目標 1「子どもたちの学びと成長を豊かにする教育を推進します。」 について

主要施策 1

校長研修会、教頭研修会等での継続した指導助言や各校の実態に応じたフォローなどにより、教育活動が確実に推進されていることは大いに評価できます。評価対象である県学力調査においては小学校が県平均を超える成果を維持できしており、目標が達成されています。しかし、中学校では県平均を下回る教科がありました。タブレットを用いて在宅学習ができる環境は100パーセント達成できしており、タブレットを用いた在宅学習の平均回数も小・中学校ともに増加していますので、今後の向上が期待できます。英語科では小・中学校をとおしたカリキュラムマネジメントの充実やALTの効果的活用などによる成果が得られており、学校運営調査での高い肯定率にもその成果が現れています。今後、「わかる」から「使える」、「使える」から「生かせる」学力の習得に向けた指導の推進を望みます。

年次計画に基づいてコミュニティスクール導入に向けた調査や説明が確実になされました。目標であった学校運営協議会の設置6校に対し12校の設置があったことは大きな成果です。今後ますます学校との連携を密にして、地域に対する周知、地域と学校をつなぐコーディネーターの配置など、コミュニティスクールの円滑な導入に向けた指導・支援をお願いします。

教職員の業務は多岐にわたる上、時事的な用務や突発的な対応なども加わるため、タイムマネジメントの難しさが指摘されています。そのような要因により目標値には達していませんが、現状はまだ「改革」の途中段階と言えます。これまでの指導助言やアプローチなどの継続により、統合型校務支援システムによる学校マネジメントの普及、中学校部活動の地域展開、各校それぞれの工夫などが進み、教職員の時間外在校等の時間削減は着実に図られています。示されている次年度以降の取組を見ると今後の成果が見込まれますが、働き方の改革と教職員の資質向上に向けたバランスの取れた取組を期待します。

主要施策 2

物価上昇が続く世情にあって、国の学校施設環境改善交付金や地方債などの有利な財源確保とその活用が工夫され、老朽化した学校施設・設備の改修が計画的に行われています。また、各校の突発的な対応事案にも迅速に対処されています。目標とした「学校のトイレ洋式化率」については、洋式化率の数値が、

目標を2.7パーセント超え、成果を上げています。学校では教職員に加え、児童生徒目線での安全点検の取組も広がっているようですので、今後も徹底した指導・支援をお願いします。

「授業中にICTを活用し指導できる教職員の割合」は目標値に届いていませんが、教職員の実態やニーズに応じたレベルアップ研修会の実施などにより、その割合は85パーセントを超え、経年での伸びが見られます。「インターネットを使って情報を活用することができる児童生徒の割合」はほぼ90パーセントであり、目標に達しています。限られた予算を効率的に執行し、情報教育環境の整備が計画的に進められていると言えます。これからも、従来使用してきた機器類のバージョンアップやインターネットの負荷問題対処、デジタル教科書やAIの普及を見据えた整備など、積極的な推進をお願いします。

主要施策3

教育委員会やスクールソーシャルワーカー、学校の教職員などによる、緻密な連携と丁寧な組織対応により、「支援を要する不登校児童生徒への訪問指導等」の実施率が100パーセント維持されていることを高く評価します。出席状況に心配がある児童生徒やその保護者に対する訪問指導員のきめ細かな配慮ある対応も高く評価できます。これからフリースクールなどの民間機関等との効果的な連携や支援が一層充実するよう願います。

「雲仙市いじめ防止アンケート」や毎学期末の「いじめの認知件数に関する調査」の実施のみならず、各学校の児童生徒の情報収集や迅速な対応が日頃から行われていることなどにより、いじめ事案が生じても「重大事態」や解決が困難な状況には至っていません。目標である「いじめ認知から3か月後の解消率100パーセント」の成果は99.5パーセントでしたが、0.5パーセントについては解決に向けた対応が継続しています。そのため、早期発見・早期対応がしっかりできていると判断できます。今後も徹底した対応と、児童生徒の情報モラルや情報リテラシーの涵養・向上に向けた具体的な指導・取組が更に充実することを期待します。

各種就学支援の随時申請に係る申請受付から認定までの期間の短縮が確実になされ、対象家庭への丁寧な対応もなされていることにより、目標は十分に達成できています。保護者への周知についての工夫も図られてはいますが、保護者の申請忘れや認識不足といった課題が挙がっていますので、まずは学校の教職員への周知やPTAの会合での広報など、学校との連携を見直されてはいかがでしょうか。

重点目標２「生涯にわたって、学べる環境づくりを推進します。」 について

主要施策１

幼児から高齢者までの市民のニーズを把握した企画が実施された結果、２００講座の実施に対し４，８８１人の参加があり、その９９パーセントの方々が満足しています。目標とした参加者数、講座満足度アンケート結果を大きく上回り、十分な成果であると評価できます。報告に示された今後の展望も妥当であり、市民の学びの充実に向けた今後の取組と参加者の拡大が期待できます。

図書貸出しに関する目標は過去の実績を考慮して設定されていると思われるが、総貸出冊数も一人当たりの貸出冊数も、目標が達成されていません。これは、この過去５年でも高度情報通信技術やＡＩの進化による端末機器の一般化が進み、それに伴う人々の活字離れ・読書離れの増加が要因と考えられます。この状況にあって、市民に対する周知・案内などの取組や利用者に対するサービスは大変充実しており、毎年一定数以上の蔵書貸し出しや利用者があることは成果として評価できます。

市民文化事業に関しては、目標とした開催数と参加者数を大きく上回っています。これは、「ながさきピース文化祭２０２５」による成果もありますが、教育委員会や本市文化連盟、本市文化会館自主文化事業振興会などの不断の取組の成果でもあると考えられます。これからも今回得られた成果や知見を生かし、取組や催しがバージョンアップされていくことを期待しています。

主要施策２

目標である「『雲仙市家庭教育７か条』の保護者認知度８０パーセント」に対しては４３パーセント、「メディア安全指導開催数３０回」に対しては２５回と、低い結果になりました。工夫してまとめられた「雲仙市家庭教育７か条」ほか、取り組まれている施策等は市内青少年の健全育成推進や家庭・地域の教育力の維持・向上にとって大変有意義であるため、認知度アップに向けた取組が数多く継続されていることは十分に評価できます。今後、幼児教育段階の保護者へのアプローチも含め、積極的な取組が展開されることを期待します。

児童生徒の人権意識の涵養に向けた学校での講演会開催数は目標を上回っています。各学校とも充実した取組がなされており、特に、講演会補助金の活用により障がいのあるプロ和太鼓集団を招聘して人権講演会を実施した学校では、大変大きな成果が出ています。一方、市民講座での人権啓発については目標に届いていません。情報過多などにより、身近なところで気づかぬうちに人

権を侵害している・されていることが多いと言われる社会状況ですので、今後は講座だけではなく、市民の実態やニーズの把握、それに対する多様なアプローチが必要であると感じました。

主要施策 3

計画されていた社会教育施設への Wi-Fi 環境設置が目標どおりになされ、市民の利便性の向上につながっています。また、物価高騰が続く世情にありながら、公共施設等総合管理計画個別施設計画に基づいて老朽化した社会教育施設の総量縮減や改修などが進んでいます。今後も縮減に際しての丁寧な対応と、市民サービスの維持を最前提とした管理運営を進めていただくようお願いします。

重点目標 3「歴史を守りながら、芸術・文化の香りが漂うまちづくりを推進します。」について

主要施策 1

各目標事項の総括的内容と言える「歴史講座の実施」の回数が目標の 3 倍となっています。本年度は「ながさきピース文化祭 2025」関連講座ほか、市内各地域の歴史や文化の豊かさと多様性を生かした講座が開催されています。特に、古文書読解による歴史講座は 10 回開催され、地域の歴史・文化の継承にも大きく寄与しています。伝統行事や芸能・ものづくりなどの伝承者の減少が深刻化する状況ですので、今後も文化財保護や関連団体等との連携や支援、伝承者の育成など、積極的な支援をお願いします。

補助事業を活用した伝統的建造物群の修理修景、各種関連団体等を連携させた催しの開催、「ながさきピース文化祭 2025」における地域文化発信などで成果が見られました。鍋島邸の入館者数は目標値に届いていませんが、経年比較では入館者が増加していることから、地域活性化が推進されていると評価できます。

市内の遺跡発掘調査が 11 件実施され、重要な遺物の発見につながるなど、着実な取組による成果が見られました。国見展示館での企画展や講座、社会科見学も効果的に実施されているため、目標とした数値の 1.6 倍の入館者数がありました。埋蔵文化財等の活用について、例えば、市内各町での巡回展や、市民・教職員等を対象とした学芸員又は発掘担当者による講座の開催など、市民の学びや郷土理解が深まる取組の検討をお願いします。

主要施策2

文化芸術活動の推進について、本年度は「ながさきピース文化祭2025」関連事業の開催により自主事業を調整してありましたが、活動実績は関連事業を加えると、目標値をはるかに超えていました。実施された事業はどれも市民の興味・関心を満たす内容だったことも評価できます。今後、今回の関連事業で得たノウハウが生かされることと思いますので、子どもを対象としたアウトリーチ事業の更なる充実を期待します。

重点目標4「運動やスポーツに親しむことができる環境づくりを推進します。」について

主要施策1

「市民の軽スポーツ人口拡大に向けた支援」、「スポーツが苦手な小学生へのアプローチ」を目標として設定された数値にはやや届いていません。しかし、軽スポーツ団体への支援やスポーツ教室などの催しの確実な実施により、運動やスポーツに親しむ市民にとって、高い満足度が得られています。また、工夫や検討を重ねて2年ぶりに開催された市民運動会では3,500名ほどの参加者があったことも高く評価できます。

「スポーツ協会加盟団体数」、「小学生クラブ活動振興会加盟団体数」について数値目標が設定されていますが、活動団体の減少が見られます。これは、人口減少・少子化を主とする社会情勢の変化によることが要因と考えられます。取組では、予定された事業とスポーツ協会や振興会等の団体に対する活動・運営支援とが計画どおりになされ、市民スポーツの推進や競技力の維持・向上が図られています。現在、中学校部活動の地域展開が進んでいますが、地域クラブの整備や指導者の確保・育成も課題であると感じます。

主要施策2

社会体育施設の定期点検は確実に実施され、危機管理がなされています。施設の予約システムは令和5年度からウェブシステムが運用されています。指定管理施設数は2施設ですが、民間企業のノウハウを生かしながら適切な連携ができています。今後、社会体育施設だけではなく、市内公共施設を総括的に有効活用するためのマネジメントサイクルの充実を期待します。

小浜体育館の供用開始時から各種団体等への誘致活動や観光関連団体等との連携が継続され、九州大学バスケットボール連盟との協定により恒例となった

大会の平日開催や、国民スポーツ大会九州ブロック大会の開催などにつながった成果は高く評価できます。今後も、参加・体験型イベント等の誘致・開催などを含め、本市スポーツツーリズムの更なる推進をお願いします。

「雲仙市教育振興計画（第２期）」による取組の最終年度に当たり、施策の全てで改善が見られました。社会情勢が変化する状況にありながらも、目標の達成に向けて各施策を推進してこられたその取組の一つ一つに、熱誠と真摯な姿勢を感じました。雲仙市教育委員会の皆様に敬意を表しますとともに、なお一層のご発展を祈念しまして、「教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況に係る点検・評価に関する報告書（令和７年度事業分）」に対する私の所見の報告といたします。

令和８年７月８日

伊藤 信

雲仙市教育委員会

〒854-0492

長崎県雲仙市千々石町戊582番地

TEL 0957-37-3113

FAX 0957-37-3112